

2015年1月から2016年5月までに
くも膜下出血で入院され 脳動脈瘤クリッピング術を受けた患者さんへ

「シルビウス裂剥離操作における ICG 術中蛍光血管造影の有用性の検討」に
関するデータ使用のお願い

脳動脈瘤破裂によるくも膜下出血は非常に重篤な病気であり、当院でも多くの症例を治療しています。本研究は、この病気の治療法の1つである脳動脈瘤クリッピング術に関するものです。

脳動脈瘤クリッピング術において、インドシアニングリーンを用いた術中蛍光血管造影 (Indocyanine green video angiography; ICG-VA) が広く行われていますが、主に動脈の観察を目的として使用されており、静脈の観察を目的とした使用法の報告はありません。本研究は患者さんのデータを分析し、シルビウス裂剥離操作時の ICG-VA によるシルビウス静脈造影の有用性を検討し、今後の治療の発展に役立ててゆくものです。

具体的には、2015年1月から2016年5月までに、くも膜下出血で当院脳神経外科に入院し、脳動脈瘤クリッピング術を受けた患者さんが対象です。今回、診療で得られたデータをまとめ、学会に報告する予定であります。つきましては、診療で得られたデータを研究に使用する事にご理解とご協力を賜りたく存じます。

この研究は、通常の日常診療の結果を集めて分析するだけですので、患者さんに新たな負担が生じることはありません。また、患者さんの住所・氏名など個人が特定されるような情報が第三者に知られることはありません。なお、この研究は医師による自主研究で学内研究費のみを使用する研究です。本研究課題の関係者には、CSL ベーリング (株)、田辺三菱製薬(株)、より奨学寄附金の受け入れ、および大塚製薬 (株) より個人収入の受け入れがあるが、利益相反委員会にこの内容を申告し、適性に管理されている。尚、上記企業は本研究課題とは直接関係のない企業である。

もし、この研究の内容についての質問や研究の内容をもっと詳しく知りたい場合には、担当医師もしくは、下記担当者までご連絡ください。

主任研究者： 戸井 宏行 (川崎医科大学附属病院 脳神経外科 医長)

電話番号 086-462-1111 (代)

FAX 086-462-1199